

司 式 ローレンス・スパーリンク宣教師

前 奏

奏 楽 森永美保姉妹

開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 92:1 新しきうたもて

新しき歌もて主をたたえまつれ。主はくすしきわぎをなしとげたまえり。  
主はすくいのみを 力もてはたし、せかいの国々にかちをつげたもう。

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、  
失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければ  
ならないことをせず、してはならないことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを  
招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いで  
ください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵  
みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えの  
ために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言：

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。

のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

\* 賛美歌 39:1 わが身の望みは

わが身の望みはただ主にかかれり、主イエスのほかにはよるべき方なし。

わがきみイエスこそすくい*の*いわなれ、すくい*の*いわなれ。アーメン

共同の祈禱 祈禱書16 復活節第三主日 主の昇天

命の主なる神さま、復活の主イエスは、わたしたちに新しい命の住まいを備えるために、天に昇られたことを覚え、心から救いのみわざをほめたたえます。主の昇天によって私たちの救いの道が完成したことを、感謝しつつ御名を賛美します。

贖い主イエス・キリストこそ、まことに、あなたに至る道であり真理であり命であると告白します。主は今も生きておられ、世の終りまで、いつも私たちと共にいてくださることを感謝します。

(ヨハネ14、マタイ28)

献 金 (黒)教会活動 (赤)静岡盲人伝道センター 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 フィリピの信徒への手紙3章10-14節、3章20-4章1節  
(新共同訳聖書 新約聖書365頁)

説教・祈禱 「前向きに進もう」 スパーリンク宣教師

\* 賛美歌 5:3 くつるものをすてて、

みくににあこがれ、人にたよらずして、み力をたのみ、わがすくい、

わが主をつねにしたいつつ、よろこびのうたもてみ名をほめたたえん。アーメン

\* 主の祈り 祈禱書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 68天つ御民も地にある者も

あまつ御民も地にある者も 父、子、御霊の神を讃えよ 神を讃えよ アーメン

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告

門脇陽子長老

なお、礼拝に引き続き、光の子の祝福式をZoomを用いて行います。CS&熊田牧師担当

参照：ハイデルベルク信仰問答問 Q. & A. 43、45、52、115

中心的主張点：しっかりと立つ主の民は、輝かしい賞を得るために、前に向かってひたすら走り続ける。

### フィリピの信徒への手紙3章10-14節、3章20節-4章1節 (新約聖書365頁)

わたしは、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです。わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。兄弟たち、わたし自身は既に捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。.....わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。だから、わたしが愛し、慕っている兄弟たち、わたしの喜びであり、冠である愛する人たち、このように主によってしっかりと立ちなさい。(以上が神様のみことばです。主に感謝します。)

### 序説：ヘブライ人への手紙10章24-25節とコロナウィルス

「互いに愛と善行に励むように心がけ、ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励まし合いましょ。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか。」こんなみことばがヘブライ人への手紙10章24-25節にあります。ちゃんと集まり続け、励ましあうことが健全な信仰生活を保つ秘訣の一つです。だからこそ、ある兄弟か姉妹が集会から遠ざかることがあれば、安否を問い、配慮して、祈りに覚え、働きかけることが特に牧師と長老たちの大切な働きの一つです。しかし今はコロナウィルスの勝ちです。歴史の中で初めて起こった大疫病ではありませんが、私たちのほとんどにとって初めて味わっている禍です。今は3密を徹底して守り、集まるのが非常に困難になっています。私たちが集まりたくないからではありません。愛し合っているから、被害に会わせたくなく、周りの近所の方々や家族に感染の危険に会わせたくないからです。どうしたら良いのかと、煩わしい課題です。日本の状況は世界の他の国と比べれば、まだそれほどではありませんが。マダ！ですね。けれども私たちのほとんどは感染してしまった仲間がいるし、家族や知人でコロナ禍で召された人も知っています。過ぎた一年間を振り返ると、「コロナの年」と理解しています。

### 1、過ぎた「コロナの一年」を振り返ってみるとたくさんの損失が確かにあった。

イ、社会にも教会にも色々な損があった。

- a. 感染して苦しむ、社会的騒動の激化、経済的損失、失業など。
- b. 旅行の制限、家族の付き合いが困難に(病床見舞いすら)。スポーツ界の困難。
- c. 交わりの制限と孤独、聖餐式なし、教会教育や伝道の困難。

ロ、新しい社会形成の機会を失った。高齢少子化を打破るチャンス！国際間の協力体制！

ハ、恐怖とストレスによる心の病の増加が見られる(子供達にも!)。自死の増加も。

ニ、世界中に日本よりもはるかに深刻なところがたくさんある。

ホ、造り主に立ち返る機会を失った？

この一年間にわたって多くの損失が確かにありました。

これらは社会にとってもそうですし、教会にとってもそうです。今のは二ニュース番組ではなく、説教ですが、振り返って確認することが妥当なのではないかと思えます。

もちろん、ウイルスにかかってしまった1億3000万人以上いることを知らされています。その中で300万人以上が亡くなりました。日本では9000人ぐらいだそうです。米国では社会的のことを言えば、対立の激化と暴力の増加が見られています。多くの国で商業界の悪化と失業者の増加があります。

旅行の制限によって家族の絆を確認することが難しくなりました。国内の帰省のための旅もそうですし、家族が海外にいる私たちのような者にとってなお困難があります。在留外国人の目に見えない苦しみがいろいろあります。スポーツ界の残念な現象が多くあります。オリンピックの聖火リレーも困難で、歓声客のない試合になりそうな、想像しにくい環境になろうとしています。

教会はといえば、主にある交わりの機会、愛餐会ができず、聖餐式を行うことが困難です。伝道プログラムと教育プログラムが難しいです。年配の主の民の中にすごい孤独感が生じています。

この中でまた、社会的改善のチャンスもどうも失っていると言えらると思えます。例えば、アットホームの仕事、居酒屋の閉鎖などによって、夫婦の時間がだいぶ増えたことが事実です。できなかったご一緒の時間が贅沢なほど増えたので、コロナbaby boomになって、高齢少子化の解決策になりうるのではと期待したかったです。ま、半分冗談で言いますが、そんなめでたい結果ではなく、夫婦喧嘩や家庭内暴力や虐待が増えたようです。余計なストレスがその原因でしょうけれども、本当に悲劇です。国際間の協力をもっとあってもいいのですが、米中の関係が悪化していますし、ミャンマーの内部混乱も起こっています。

余計な不安とストレスによって心の病を起こしています。自死が増えています。子供達もストレスが増え、これによって一生涯持たされる心の傷ができています。

世界諸国の状況をよく見れば、日本はまだよほど良い方です。

私に言わせると、最も残念なことは、人間の罪と無力を受け止めて、へりくだって創造主に立ち返る機会に転じないことです。今こそ、主のみ顔を求めて、助けを祈り求める最良の機会ですのに。

## 2、失ってもいいもの、捨て去るべきものもある。

イ、使徒パウロの場合は：自分の功績により頼むこととこれに伴ういろんなこだわり。

ロ、私たちにあって：独り善がり、誤った信心、無神論「信仰」、富への愛着。

ハ、主の御心に一致しない姿勢や態度とこれらに伴う行動。

ニ、不必要なノルマ。亀裂や対立をもたらす自己中心や利己心。

もちろん、このコロナウイルスによって なくともいいもの、捨て去ってもいいものがいっぱいあることにも気づいているかもしれませんが。本当に大事なものは何か、よく考える機会です。

捨てるべきものといえば、本日のフィリピの手紙で使徒パウロがいろいろ指摘しています。パウロはユダヤ人の中で最も厳しいパリサイ派に属して、3章では、本来、自慢に思っていた自分の功績を語っています。これなら、当然、聖なる神様はきっと認めてくださるはずだと自慢に思っていた功績です。けれども、その儀式的外面的正しさによって心が清くなっていませんでした。神様の恵みによってこれを悟った時に、その自慢と思い上がりを一斉に捨ててしまうのでした。イエス様が提供してくださる赦しと清めによってのみ、神様に受け入れていただき、新しくされることを知らされるわけです。

新たに生まれ変わった使徒パウロです。キリストによってのみ清められ、新たにされることを至るところで宣べ伝える者になっていきます。イエス様はその十字架と復活によって新しい命を、救いを、赦しを提供して下さいます。使徒パウロよりもこれを熱心に伝道に励む者はいませんでした。これは自分の功績を打ち立てるためではなく、すべてを恵みとしていただいたことに対する当然の感謝としてそうするのは。そこで、フィリピの教会にも私たちにも勧めます。自分の努力にとって何かを持っているという虚しい想いを一切捨てるように。もちろん、他の誤った思いも捨てるようにも勧めてくれます。偽りの神々への礼拝、神仏であれ、祖先であれ、これを止めるように。無神論の虚しい思想を捨てるように。財産と金銭への愛着、あるいはこれらをすべての問題の解であるかのような思いや行動を止める。

そうです。私たちにも場合によってこれらがあります。神様の御心にかなわない姿勢や態度。優越感。差別と分け隔て。人を裁き付ける心。

その他に何かなくても良いもの、あるいは捨てるべきものはないでしょうか。分裂と対立をもたらすいろいろなノルマへのこだわりはないでしょうか。自己中心的な思いや利己心はないでしょうか。人種差別はいかがでしょうか。これはアメリカにある大きな社会的問題ですが、アメリカだけではなくありません。日本にもあります。だって、これは人間の心の根強い問題ですから普遍的でどこにもあります。これらに替えて、謙遜と柔和を身に着けて、イエス様が私たちを愛してくださったように、お互いを愛し合うことではありませんか。

### 3、大胆に新しい試みを「余儀なくされた」！

イ、新しいワーク・スタイル、新しい予防接種開発への刺激となった。

ロ、教会の想像的対応の数々が見られる。

ハ、初めて生かされた「隠れた賜物」の貢献もある。

ニ、場合によって驚きに成果が見られる！

言うのがおかしいかもしれませんが、コロナ禍のおかげで新しい試みを大胆に挑戦してみる事柄がありました。一般社会においてもそうですね。新しい仕事ぶり、アットホーム勤務があります。予防接種の新しい開発も進んでいます。経済困難を助けるために思い切った新しい支援プログラムがあります。教会においても、創造的な新しい対策が見られます。この災禍が起こらなければ考えもしなかったことがあります。会議や諸集会のためにインターネットツールを使っています。新しい伝道方法も見出しています。例えば、2020年4月5日には上福岡教会は初めてインターネットによる礼拝の動画を録音しながら、ライブ配信を試みました。たまたまその日、私が当番でした。その動画ファイルは未だにKFCのホームページからアクセスできますね。(録音礼拝の終わりが近づくと、礼拝の最後に主の祈りを捧げます。私はかなり感情的になっていたようですが、途中で主の祈りの言葉を忘れてしまい、頭の中が混乱状態になりましたね。なんとかして自分なりに勝手な祈りを捧げて終えたのですね。陪席していた仲間は一切どう思われたでしょうか！皆親切ですから、何も言ってきましたね！)

新しい現実に新しい二ツが伴いますが、その時に主に仕える主の民の中に必要な賜物があり、進んで奉仕者として申し出る人が現れます。今まであまり評価しなかったかもしれませんが、コンピューターのノーハウの方がいます。もっともっと申し出を期待していますが！

そしてある場合は、思いがけない実りもあります。先ほど話したKFCの第一回目のインターネット礼拝が良い例です。教会堂に150名が集えば、ギリギリ満員になりますね。けれども、ZoomやYouTubeにはそんな制限がありません。2020年4月5日のウェブサイトのアクセス数は実はなんと400回以上になっています！他の多くの教会も同じ成果を報告

しています。その後は数が衰えていますが、今までできたアウトリーチをはるかに超えているわけです。それよりも、私たちにやる気さえあれば、こんなこともできるのだと知らされているわけです。これは大きいことですね。

#### 4、賞を得るためにどうすれば良いだろうか。

イ、主イエス・キリストによる救いの道を理解してこれに留まる。

ロ、未完成の世界宣教に思い切って励む。

ハ、新しい方法を積極的に取り入れて挑戦する。

ニ、損したものの悲しみに夢中にならず、「エルサレムの再建」への貢献に挑む。

使徒パウロは賞を得ることを狙いなさいと話しています。神様の定めた仕事をきちんと終えるようにと言います。スポーツ界のたとえで話していますが、それは具体的に私たちにあってどういうことなのでしょう。

それはまず、基本的訓練に励むことです。相撲にいろいろな技術がありますが、その先にまず、健康管理と筋肉を鍛えることです。体と精神力を整えることです。言い換えれば、第一に必要なのは主イエス様が提供してくださる救いの道を理解して、信じて、これにしつこくこだわることです。天のお父様に通じる道が他にないこと。赦しと命に至る道が他にないこと。これがなければ何も持っていません。しかしこれがあれば、主が共におられるから、どんなことでもできるのです。イマヌエルがいますから！ この基本を強調しすぎることができません。ここにもう一度救いの道を繰り返します。今日も確認します。「我はその独り子、我らの主イエス・キリストを信ず！」

マラソン選手に比べてみましょう。これは使徒パウロが使っている例えです。長一い道のりですが、その走るべき過程をまだ走り抜けているではありません。その未完成の過程とは何でしょうか。それは主イエス様が私たちに残した使命、ミッションです。ルカ伝24章46-48節です。「(イエスは)言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、その名によって罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まって、すべての民族に宣べ伝えられる。』あなたがたは、これらのことの証人である。」あなたがたは、これらのことの証人である。主が再びおいでになり、すべてを新しくする前に、この使命を果たさなければなりません。

2000年経ってまだ完成していなければ、今はどうして完成することができるでしょうか。それは私たちが 神様を愛し、隣人を愛し、お互いを愛し合いながら、イエス様のストーリーをなお他の方々に語り伝えることによってです。また、新しい方法を見出し開発して、思い切って行うことによってです。文書や集会、従来の方法でやるのはもちろんのことです。でもことさらに、コミュニケーションのこの時代に、新しい方法を使うことは当然ではないでしょうか。今はこれをほんのわずかにしかやっていません。説教者が不足しているピンチがありますか。今回は大きなヒントを得ました。一人がいつべんに1箇所以上に同時に立つことができる時代です。ひとつの教会に複数の場所で集会が同時にできる時代です。実はかなり前からですが、これは今の私たちにもできるんだ！と初めて知らされています。礼拝式はもちろんのこと、聖書の学び会も、聖書の学び会を導く奉仕者の訓練会も、祈り会も、洗礼準備会も、車や電車に乗らないままで同時に広くできるのです。やろうと思う人の足を誰が引っ張るでしょうか。今、大胆に、実践に移すことはありませんか。

先日は2011年3月11日の東日本大震災の10周年の機会に、いろいろな特別番組があり、地震と大津波と原発事故の災難を思い起こしてその後どうなっているかを見せていました。ある番組の語り手の方が被災地について話したことによって私はドキッとしました。次のように覚えています。「想像を絶するほどの損失が確かにありました。しかしながら、損失に夢中になるよりは、前向きに将来を形成していくことが鍵ではないかと思えます。」と。当然です！ 常識です！ 捕囚からエルサレムに帰還して、神様の神殿を再建しようとしたユダ

ヤ人にネヘミヤが同じことを話したではないか！ イエス様に従うために居場所をなくした祭司たちにヘブライ人への手紙の著者が同じことを書いているではないか！ これから実現しようとしている神の国形の成に一筋献身して、私たちの大祭司でいらっしゃる主キリストの与えてくださった過程をちゃんと走り抜けて、この方が与えてくださった使命をちゃんと果たそうではないでしょうか。

**決論： Stand firm, but don't stand still!** (しっかり立つこと、でもじっとするのはない！) 神の国の居場所があるので、恐れずに励むと 主の豊かな祝福が必ず与えられる。

今日の聖句の最後のところで使徒パウロはこう書いています。「このように主によってしっかりと立ちなさい」と。でも、「しっかり立つこと」イークアル「動くな」ではありません。Stand firm, but don't stand still! 主イエス様のおかげで、私たちの「立つところ」が与えられています。私たちは主の恩恵によってその体である教会の一部分にされています。いつまでもたちとどまることのできる輝かしい居場所が天にあります。教会堂で集まることができても、できなくても、私たちはこのまま、主の「喜びであり、冠である愛する人たち」です。だからこそ、動き出すのです。思い切って前進するのです。困難があっても、主が豊かな祝福を注ぎかけてくださるに決まっています。それでは、主の御国を来たらせる働きを、全身全力を挙げて励み、走るべき過程をゴールまで走り抜こうではありませんか。アーメン。